

ぐんま緑の県民基金事業の第Ⅱ期における主な見直し内容について

【事業見直しの前提・視点】

- 現行制度において、実績が上がっており一定の評価も受けていることから、現行の事業体系と規模を基本に検討する。
- 群馬県議会からの提言や市町村等からの要望、ぐんま緑の県民税評価検証委員会からの意見を踏まえる。
- ぐんま緑の県民税導入後に顕在化している、森林・林業を取り巻く「新たな課題」にも配慮する。

【主な見直し内容】

事業区分	課題・要望	見直し内容	要望者
市町村提案型事業	人口減少、高齢化等により、地域住民による管理（下刈り作業等）が難しくなっている。	地域住民による管理が困難と認められる場合は、管理作業を委託できるようにする。	・ 県議会 ・ 市町村 ・ 評価検証委員会
	里山・平地林の整備において、シカ等による植栽木への食害が多く発生している。	地域住民が植えて管理する樹木について、獣害防止対策（ツリーシェルター等）の材料費を補助する。	・ 県議会 ・ 市町村
	竹林の整備地では、伐採した竹を処理しないと、後年度の管理ができない。	林内処分できない竹を林外搬出する経費を支援する。なお、搬出した竹は資源利用（竹炭、きのこ菌床等）することを原則とするが、やむを得ず焼却処分する場合は、処理施設までの運搬費等を支援する。	・ 県議会 ・ 市町村
	ぐんま緑の県民税に関するアンケート調査の結果、認知率が低い。	ぐんま緑の県民税や森林の役割について知ってもらうため、森林等に親しむ体験活動（森の体験会・観察会等）について、新たに支援の対象とする。 事業の施行地に「ぐんま緑の県民税」の看板を立てる経費について支援する。	・ 県議会 ・ 評価検証委員会
水源地域等の森林整備 【県による間伐等】	森林の過密化が進んでいても、要件に合わないため採択されない森林がある。	災害が発生する可能性がある人家裏等の急傾斜地森林も採択可能とする。	・ 県議会 ・ 市町村
	松くい虫被害以外にも、近年の大雪等の気象災害で大きな被害を受けている森林がある。	被害が大きく、森林の公益的機能が低下している森林の再生について、新たに対象とする。	・ 県議会
	施業履歴が15年未満であっても、下層植生がなく、災害の恐れがある森林がある。	下層植生が衰退している森林については、施業履歴に関わらず採択できるようにする。	・ 県議会 ・ 市町村
普及啓発 【県事業】	ぐんま緑の県民税を使って作業していても、周りは何の事業か知らない。	事業PRの横断幕等を団体に支給し、刈り払い等の実施時に掲示する。	・ 市町村 ・ 評価検証委員会
	ぐんま緑の県民税に関するアンケート調査の結果、認知率が低い。（再掲）	関係団体と連携し、ぐんま緑の県民税のPR活動を実施する。	・ 県議会 ・ 評価検証委員会